

吉里吉里漁港（岩手県大槌町）

●地域の特徴

主要魚種の不漁による定置網漁業の低迷や市場取扱高の減少は、加工・流通業の原料不足といった関連産業の縮小を招き、それに伴う人口減少と高齢化の進行が大きな課題となっている。一方で、三陸鉄道の結節点であることや、海・山・川が近接するコンパクトな地理的優位性を有している。

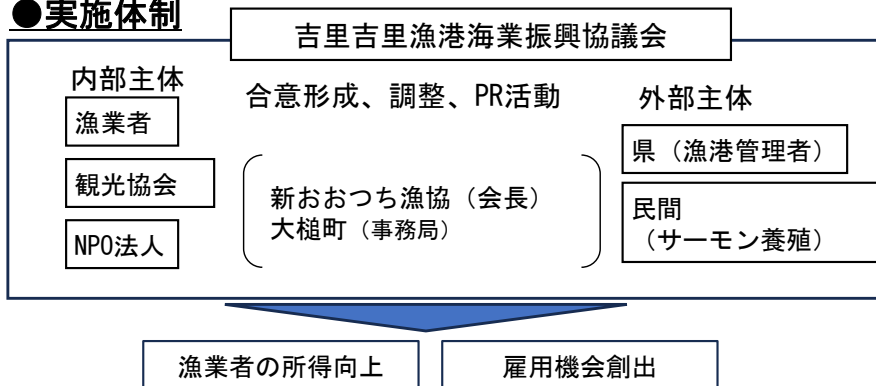
●取組に至った背景

- ・吉里吉里漁港を核としながら、地域の基幹産業である水産業を基盤に、養殖業の振興や藻場再生活動等の取組を推進
- ・岩手大槌サーモンの生産拡大や、藻場再生の取組を中心に、漁業者、関係団体、行政等が連携した取組を実施
- ・これら既存の取組を基盤としつつ、吉里吉里漁港を活用した、水産業の生産機能の強化に加え、観光や交流、地域資源の活用等を組み合わせた「海業」の展開を図る。

●取組の概要

- ・活用類型：体験・観光
- ・立地特性：地方・過疎地
- ・施設の状況：新たな施設を整備
- ・活用施設：漁港水面
- ・取組内容：浮棧橋を活用した藻場再生・漁業体験やブルーツーリズムの受け入れ。

●実施体制



●活用推進計画の概要

- ・計画策定（予定）日：令和8年度以降
- ・実施（予定）期間：30年間（予定）
- ・漁港管理者：岩手県
- ・事業目的：体験・観光受け入れ拡大
- ・事業概要：藻場再生・漁業体験やブルーツーリズム受け入れに必要な浮棧橋の管理・運営事業。今後、富裕層をターゲットとした藻場再生体験も本格稼働予定のため、整備検討。ただし、運営主体により活用推進計画の策定の必要性が無い場合もあるため、引き続き検討が必要。

位置図



出典：海上保安庁ホームページ(https://www.kaiho.mlit.go.jp/02kanku/kamaishi/new_kamaishi/91_00%20port.html)

期待される成果・効果（事業）

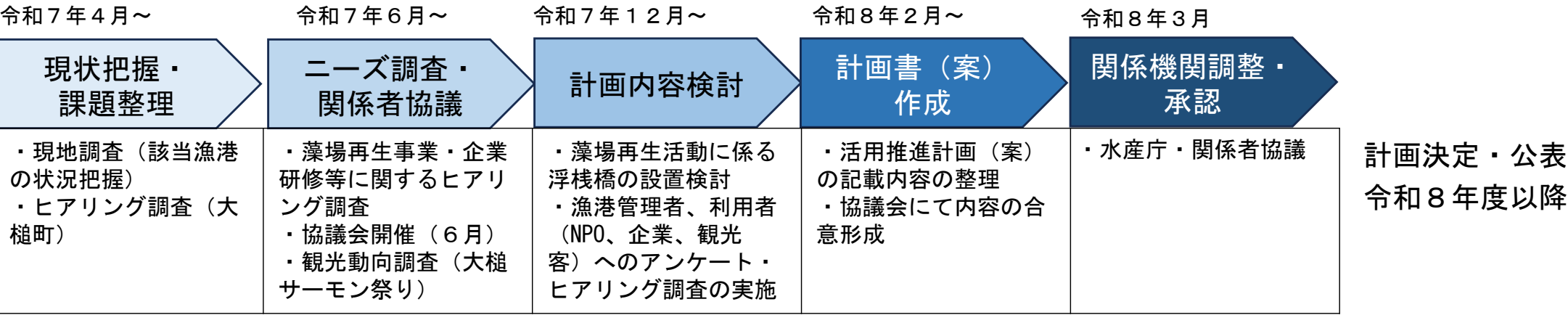
- （定性的効果）
- ・地域への波及効果、観光地として魅力の増大、賑わいの創出

吉里吉里漁港（岩手県大槌町）

●参考情報

- ・水産庁 漁港施設等活用事業の推進に関する手引き（案）

●活用推進計画策定のプロセス



●合意形成・関係者調整

- ・大槌町では、令和5年に地域資源を一体的に活かした地域の活性化を実現に向けて動いていくことを目的として「吉里吉里漁港海業振興協議会」を設立している。この協議会は吉里吉里漁港を利用している漁業関係者、サーモン養殖事業者、藻場再生活動団体、観光交流協会及び行政で構成されており、2回～3回/年の頻度で開催している。
- ・ニーズ調査として、協議会委員を中心にヒアリング調査を実施し、地元自治体や漁港管理者と協議を重ね、ゾーニングおよび活用推進計画（案）を作成し、協議会において合意形成した。

●課題（原因分析を含む）及び今後の対応方針

- ・必要性はあるものの、海業関連の事業者だけでは施設の設置費用を賄うことができないため、誰が設置し継続的な運営をおこなうのか課題が残されている。
- ・今年度も引き続き協議会を開催しており、活用推進計画の公表については引き続き検討を続けていく。

●他の漁港管理者へのアドバイス

- ・ニーズの把握と漁港利用者や行政などの関係者との調整については、協議会前の事前調整をしっかりとおこなうことでスムーズに進むことが多い。
- ・課題としては、誰がどの予算で設備投資するのか、維持管理者は誰なのか、事前にサウンディングをおこなうことが重要である。